

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ

茨城県立荊崎高等学校 対 石川県立小松北高等学校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 1回戦

■試合時間 2時間13分 ■備考

■審判 球審:松山 塁審:小山 森井 須田

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
荊崎	茨城	3	0	0	0	0	0	0	1	0					4	2	2
小松北	北陸・石川	1	2	1	1	0	0	0	0	×					5	8	3

荊崎		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	捕		張 替 瑞 生	4	1	0	0	振逃	一邪			遊失			三振					
2	遊		北 川 拓 実	4	1	0	0	三振		三振		三振			投失					
3	投		小 林 佑 企	3	1	0	0	死球		三振		遊ゴ			投失					
4	一		平 田 陸	4	0	1	0	三振		左安				三振	三振					
5	三		岡 澤 大 地	4	1	1	2	中安		三振				三振	投ゴ					
6	二		横 山 義 樹	4	0	0	0	振逃				投ゴ		三振			三振			
7	中		山 口 裕 輝	4	0	0	0	三振				三振			三振		三振			
8	右		土 田 貴 大	4	0	0	0		三振		三振				三振		三振			
9	左		川 端 龍 功	3	0	0	0		三振					三振						
合計				34	4	2	2	残塁:4 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手
小 林 佑 企

捕手
張 替 瑞 生

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
小 林 佑 企	8	36	8	13	2	3

小松北		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	捕		橋 本 大 希	3	3	1	0	右安	遊失		四球		一邪							
2	中		新 郷 翔 貴	3	0	1	1	四球	中安				三振							
3	投		長 濱 透 和	4	0	2	2	右安	三振		遊安				三ゴ					
4	遊		中 嶋 晋	4	1	1	0	遊ゴ		左2	投ゴ				三失					
5	三		森 瀬 パウロ	4	0	0	0	捕飛		三振			三ゴ		投ゴ					
6	左		坂 中 亮 太	4	0	1	0	三振		右安			三振		三振					
7	一		森 海 斗	4	1	1	1		左安	一ゴ		遊ゴ			三振					
8	右		松 尾 飛 勇	3	0	0	0		三振	三振				三振						
8	打	右	和 泉 康 生	1	0	0	0									三振				
9	二		今 井 雄 貴	4	0	1	0		遊ゴ		投ゴ			一安		三振				
合計				34	5	8	4	残塁:7 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手
長 濱 透 和

捕手
橋 本 大 希

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
長 濱 透 和	9	35	2	25	1	0

■戦評

開会式に続き神宮球場で行われた65回大会の開幕試合は、3年連続3回目出場の茨城県代表・県立荊崎高校と2年連続11回目出場の北陸地区代表・石川県立小松北高校の対戦となった。先攻の荊崎は初回5番岡沢の2点適時安打や相手バッテリーのミスなどにより3点を先制する。一方の小松北はその裏3番長濱の適時安打で1点を返すと2回敵失と2番新郷の適時安打により同点に追いつく。勢いに乗った小松北は3回に1点を奪い逆転に成功すると4回にも1点を追加し試合を優位に進める。立ち直りを見せた両先発投手の前にどちらも追加点を奪えぬまま試合は終盤へ。8回表荊崎は相手のミスから1点を奪い5-4と1点差に迫るとその裏の小松北の攻撃を三者連続三振に抑え最後の攻撃に望みを託す。しかし最終回の荊崎の攻撃を今度は小松北先発長濱が三者連続三振に抑え試合終了。先発長濱の25奪三振の力投が光った小松北が5-4で勝利した。一方敗れた荊崎先発小林も低めにボールを集め毎回の13奪三振を記録し、両主戦が神宮球場での開幕試合という大舞台で持ち味を遺憾なく発揮した好試合となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ 大阪府立桃谷高等学校 通信制 対 福島県立いわき翠の杜高等学校

■球場 府中市民球場 第1試合 1回戦 ■試合時間 2時間48分 ■備考 中斷3回合計17分

■審判 球審:星 塁審:鈴木(優) 大和 小松

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9						計	安	失
桃谷・通	大阪	0	0	0	1	0	3	0	0	0						4	10	3
いわき翠の杜	南東北・福島	0	0	0	1	0	7	0	1	×						9	8	3

桃谷・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投		中野半蔵	1	0	1	0	中2												
1	打	一	木曾川祐二	4	1	0	0			三振		投ゴ		三振		投ゴ				
2	遊	二	福井康佑	4	1	1	0	二ゴ		一失			中安	三振		四球				
3	二	投	高崎力	2	1	0	0	三振		三振			四球							
3			松田俊喜	1	0	0	0							三振						
4	捕	遊	赤羽根拓	4	1	2	1	三振			遊安		左安		三ゴ					
5	左		野中守優	4	0	3	0		中安		左安		三振		右安					
6	一	捕	中村拓幹	4	0	0	0		二飛		遊ゴ		遊飛		三振					
7	三		富家康秀	4	0	1	2		三振		三振		右安		投ゴ					
8	中		国本敏光	4	0	1	0		遊飛			捕飛	三安			一飛				
9	右		金光拓志	4	0	1	0			三振		三振	三振			左安				
合計				36	4	10	3	残塁:7 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手
中野半蔵
高崎力
赤羽根拓
木曾川祐二

捕手
赤羽根拓
中村拓幹

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
中野半蔵	2	6	0	2	0	0
高崎力	2 1/3	12	1	2	4	0
赤羽根拓	1 1/3	11	4	3	2	4
木曾川祐二	2 1/3	13	3	4	1	1

いわき翠の杜		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9			
1	二	遊	柴田奎弥	5	1	1	0	一飛			二ゴ	二飛	中安			遊失				
2	遊	捕	新妻孝弘	3	3	0	0	投ゴ			四球	四球	振逃			振逃				
3	投		和田望	5	1	2	1	二ゴ			右飛	右飛	右3			左安				
3		右	芳賀美咲	0	0	0	0													
4	捕	投	生田目陸	3	1	1	0		二ゴ		四球		四球	右安		二ゴ				
5	中	一	馬上凌	4	1	2	2		三振		中安		右安	三失		四球				
6	一		遠藤巧斗	5	1	1	1		三振		三振		左2	三振		右飛				
6		中	横沢侑生	0	0	0	0													
7	三		後藤泰陽	3	1	1	0			投ゴ		死球	右安		三ゴ					
8	左		大武春香	4	0	0	0			三ゴ		三振	三振		三振					
9	右	二	會川青空	3	0	0	0			投ゴ		四球	三振		三振					
合計				35	9	8	5	残塁:9 併殺:1												
				備考																

■バッテリー

投手
和田望
生田目陸

捕手
生田目陸
新妻孝弘

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
和田望	8 1/3	35	9	14	1	3
生田目陸	2/3	3	1	0	1	0

■戦評

1回戦府中球場の第1試合は、初出場の大阪府代表・府立桃谷高校・通信制と5年ぶり4回目出場の南東北地区代表・福島県立いわき翠の杜高校の対戦となった。試合序盤は両先発左腕の投げ合いで無得点が続く。3回表桃谷は好投を続ける先発中野が打席でのアクシデントにより負傷交代となるが、その裏緊急登板した2番手高崎が相手打線を三者凡退に抑えチームの危機を救う。4回に両チーム1点ずつを取り合い同点で迎えた6回試合が一気に動く。先攻の桃谷が4番赤羽根7番富家の適時安打により3点を勝ち越す。一方いわき翠の杜もその裏5番馬上からの三連打に相手のミスも重なり4点を奪い逆転に成功するとその後も3番和田の適時二塁打などによりこの回打者12人で計7点を奪う猛攻を見せた。いわき翠の杜が8回に1点を追加しこのまま逃げ切るかと思われた9回、投手と一塁手が交錯し両名が負傷交代となるアクシデントに見舞われたが全員で残りのアウトを奪い9-4で勝利した。一方敗れた桃谷は第1打席で二塁手を放ち交代まで相手打線を無安打に抑えていた先発中野の負傷交代が何とも悔やまれる結果となった。また両チームとも負傷交代した仲間の分まで残りの選手が全力で戦う姿が印象に残る一戦となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ

愛知県立刈谷東高等学校 対 群馬県立前橋清陵高等学校

■球場 府中市民球場 第2試合 1回戦

■試合時間 1時間26分 ■備考 5回コールド

■審判 球審:清水 塁審:小松 鈴木(優) 谷川

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5									計	安	失
前橋清陵	北関東・群馬	0	0	0	0	0									0	1	3
刈谷東	東海・愛知	3	5	1	4	×									13	6	0

前橋清陵

	ポジション			氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5					
1	遊	投		若林 祐輔	2	0	1	0	左安		三振							
2	中	投	中	飯塚 涼太	2	0	0	0	左邪			三ゴ						
3	投	中	遊	田中 大輝	2	0	0	0	三振			三ゴ						
4	三			木下 龍太郎	2	0	0	0	三振			三振						
5	捕			藤木 流輝也	1	0	0	0		遊ゴ								
5			打	田中 颯真	1	0	0	0		三振			左飛					
6	二			吉澤 直樹	1	0	0	0		三振								
6			打	寺田 昂正	1	0	0	0					三振					
7	一			加藤 雅也	1	0	0	0										
7			打	篠田 蒼樹	1	0	0	0					三振					
8	右			遠藤 友貴彦	1	0	0	0			三振							
9	左			大澤 裕昭	1	0	0	0			三ゴ							
合計					16	0	1	0	残塁:1 併殺:0									

備考

■バッテリー

投手
田中 大輝
飯塚 涼太
若林 祐輔

捕手
藤木 流輝也

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
田中 大輝	1 0/3	9	3	0	5	5
飯塚 涼太	2	10	2	2	2	1
若林 祐輔	1	8	1	3	2	1

刈谷東

	ポジション			氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5					
1	中			増本 海人	2	1	1	2	四球	右安	中飛							
2	遊			垣 洵 拓人	2	2	0	0	四球	三振			二失					
3	三			西村 寛輝	3	2	1	0	中安	投飛			振逃					
4	捕			小栗 雅仁	2	3	2	3	四球	左安			左3					
5	右			吉水 竜彦	2	1	0	0	三飛	三振			四球					
6	投			日比 俊希	3	0	1	1	右安		遊飛	三振						
7	左			河野 舜	2	2	1	0		右安	四球	二ゴ						
8	一			山崎 快	1	1	0	0		四球	投ゴ	死球						
9	二			岩月 桃香	0	1	0	0		四球	四球							
9		打	二	板倉 佑弥	1	0	0	0					三振					
合計					18	13	6	6	残塁:2 併殺:0									

備考

■バッテリー

投手
日比 俊希

捕手
小栗 雅仁

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
日比 俊希	5	16	1	9	0	0

■戦評

1回戦府中球場の第2試合は、3年ぶり5回目出場の東海地区代表・愛知県立刈谷東高校と3年連続3回目出場の北関東地区代表・群馬県立前橋清陵高校の対戦となった。先攻の前橋清陵は初回先頭の若林が安打で出塁するとすかさず二盗を決め無死二塁と好機を作るが後続を断たれ無得点に終わる。一方の刈谷東はその裏四球を足がかりに相手バッテリーのミス逃さず幸先よく3点を先制すると2回無死満塁の好機に一番増本が右翼へ適時安打を打ち相手の守備の乱れもあり走者が一掃する。その後も適時安打や暴投により追加点を上げこの回計5点を奪い試合を優位に進める。勢いに乗る刈谷東は3回にも1点を追加し9-0で迎えた4回無死二三塁から4番小栗が適時三塁打を打ち2点を追加すると相手のミスによりさらに2点を奪い試合を決めた。一矢報いたい前橋清陵であったが2回以降刈谷東先発日比の前に一人の走者も出せなかった。投打に相手を圧倒した刈谷東が5回コールド13-0で勝利した。一方敗れた前橋清陵はタイプの違う三投手の連投で粘り強く戦ったが、三投手で計9四死球を与えるなど両チーム投手の制球力の差が明暗を分け無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ 佐賀県立佐賀北高等学校 通信制 対 クラーク記念国際高等学校 柏 通信制

■球場 府中市民球場 第3試合 1回戦 ■試合時間 2時間47分 ■備考

■審判 球審:大和 塁審:谷川 田島 星

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
佐賀北・通	西九州・佐賀	0	2	1	2	0	0	2	2	0	9	11	3
クラーク柏・通	千葉	0	0	0	1	1	1	0	0	1	4	5	7

佐賀北・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	投	遊	園田 輝	5	0	1	1	遊飛	三失		二ゴ	遊ゴ		二安	四球				
2	遊	投	江頭 憂哉	5	1	3	2	四球	三振		中安		投ゴ	左安	遊安				
3	一		江越 泰心	4	2	1	0	遊飛		左2	死球		守妨	四球	一ゴ				
4	捕		森 裕輔	5	0	1	0	右飛		四球	遊失		左2	遊ゴ		捕邪			
5	中		佐藤 真悟	3	1	1	0		左2	四球	三振		中飛						
6		打	城野 隆弘	2	0	0	0									三振	二ゴ		
7	右	投	後藤 永次	5	2	1	1		三ゴ	中犠	中飛			遊失	左2	捕邪			
8	左		平松 直樹	5	1	0	0		三失	三振		三振		反打	左飛				
9	三		梅野 賢斗	4	1	1	0		一安	四球		投ゴ		遊直	左失				
	二	右	能 隅 祐樹	4	1	2	0		三振	投ゴ		中安		三安	四球				
合計				42	9	11	4	残塁:15 併殺:0											
備考																			

■バッテリー

投手
園田 輝
江頭 憂哉
後藤 永次

捕手
森 裕輔

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
園田 輝	4	17	2	5	2	1
江頭 憂哉	2	11	2	4	2	1
後藤 永次	3	15	1	6	5	1

クラーク柏・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	遊		神宮司 光汰	3	1	0	0	遊ゴ		四球	打妨	中飛		三振					
2	二		野島 恭之	4	1	1	0	三振		二安	投ゴ		三振		四球				
3	投		斎藤 千起	5	1	3	1	三振			左安	右安		三ゴ		三安			
4	一		鈴木 啓太	2	0	0	0		三振		遊飛	四球		四球		四球			
5	中	三	鹿志村 航斗	5	0	0	0		遊飛		三失	三振		三振		三振			
6	三	中	辻 博之	4	0	0	1		投失		三振		三振		死球	二ゴ			
7	捕		豊田 航也	3	1	1	0		二ゴ		四球		遊安		四球	一邪			
8	右		高橋 優介	4	0	0	0			二ゴ	三ゴ		三振		三振				
9	左		石川 皓悦	3	0	0	0			三振		三振	四球		三振				
合計				33	4	5	2	残塁:12 併殺:0											
備考																			

■バッテリー

投手
斎藤 千起

捕手
豊田 航也

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
斎藤 千起	9	51	11	6	8	2

■戦評

1回戦府中球場の第3試合は、2年ぶり14回目出場の西九地区代表・佐賀県立佐賀北高校・通信制と初出場のクラーク記念国際高校・柏・通信制の対戦となった。佐賀北は2回先頭の5番佐藤が二塁打を放ち好機を作ると相手のミスが重なり2点を先制する。続く3回6番後藤の犠飛により1点を追加すると4回相手の3失策を逃さず2点を奪い5-0と点差を広げる。対するクラーク記念国際・柏は4回先頭の3番斎藤が安打を放つと隙の無い走塁を見せ三塁まで進み相手のミスにより生還し1点を返す。さらに5回6回にも1点ずつを返し5-3と追い上げる。引き離したい佐賀北は7回1番園田2番江頭の連続適時安打で2点を奪うと8回にも相手のミスから2点を追加する。粘るクラーク記念国際・柏は9回2四球と安打により無死満塁の好機を作るが内野ゴロの間に1点を返すのがやっと。三投手の巧みな継投で終始試合を優位に進めた佐賀北が9-4で勝利した。一方敗れたクラーク記念国際・柏は7失策に2つのボークと守りのミスが目立ちそれらがことごとく失点につながってしまったのが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 今治精華高等学校 通信制

■球場 江戸川区球場 第1試合 1回戦 ■試合時間 2時間27分 ■備考 中断2分

■審判 球審:加藤 塁審:渡辺 渡邊 ワン

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9						計	安	失
今治精華	四国・愛媛	0	0	1	0	0	0	0	0	0						1	2	1
日本ウェルネス・通	東京2	0	0	0	0	0	4	0	2	x						6	6	5

今治精華		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	捕	投	橋本 祐馬	2	1	0	0	四球		死球	投ゴ		四球		二失				
2	右		田邑 章馬	5	0	0	0	二飛		三振	一飛		二ゴ		投ゴ				
3	投	中	清水 羅生	2	0	0	0	遊失		四球	遊ゴ				四球				
4	中	投	藤田 翔成	1	0	0	0	四球		二ゴ			四球						
4		一投	小倉 和真	1	0	0	0								三振				
5	遊	投	久保 孝博	3	0	0	1		捕邪	四球			三振		一飛				
6	一		村上 颯太	4	0	0	0		投ゴ	三振			一邪		三振				
7	三		永井 大智	3	0	0	0		遊失		遊失		三ゴ						
7			清洲 麗	1	0	0	0											三振	
8	左		旭 一輝	3	0	0	0		三振		三振				三振				
8			藤田 宗寿	1	0	1	0											右安	
9	二		門屋 優志	4	0	1	0			左安	二併			三振				投飛	
合計				30	1	2	1	残塁:10 併殺:0											
				備考															

■バッテリー

投手
清水 羅生
藤田 翔成
久保 孝博
小倉 和真
橋本 祐馬

捕手
橋本 祐馬
小倉 和真

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
清水 羅生	5	17	2	6	0	0
藤田 翔成	0 0/3	5	2	0	3	4
久保 孝博	0 1/3	3	0	1	2	0
小倉 和真	2	10	2	2	1	0
橋本 祐馬	0 2/3	2	0	1	0	0

日本ウェルネス・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9			
1	投		津澤 拓実	4	1	0	0	三振			左飛		四球		二ゴ	二ゴ				
2	二		小松 拓毅	4	1	2	0	三振			中2		遊安		捕邪					
3	一		坂元 レオ	4	1	2	1	捕邪			投ゴ		一安		右安					
4	遊		中山 隼	3	0	0	1		三振		投飛		四球		二飛					
5	中		大城 海人	4	0	1	0		三振			左2	三振			三振				
6	右	左	富山 義士	3	1	1	1		一ゴ			三振	四球			右安				
7	捕		東 龍	2	1	0	0			遊ゴ		遊飛	死球			四球				
8	左		金木 脩祐	3	0	0	0			二飛		三振	三振							
8		打	老田 翔	1	0	0	0												投失	
9	三		南馬 僚介	3	1	0	0			三邪			四球	捕邪		三振				
合計				31	6	6	3	残塁:7 併殺:1												
				備考																

■バッテリー

投手
津澤 拓実

捕手
東 龍

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤 拓実	9	38	2	10	8	1

■戦評

1回戦江戸川球場の第1試合は、初出場の東京都第2代表・日本ウェルネス高校・通信制と3年ぶり9回目出場の四国地区代表・愛媛県今治精華高校・通信制の対戦となった。今治精華は3回二死満塁から5番久保が押出四球を選び1点を先制する。中盤まで日本ウェルネス津澤、今治精華清水の両先発投手が好投を見せ緊迫した投手戦となる。再び試合が動いたのは6回。日本ウェルネスはこの回から救援した今治精華2番手藤田(翔)を攻め2つの四球と内野安打で無死満塁の好機を作る。ここで3番坂元が適時内野安打を打ち同点に追いつくと4番中山も押出四球を選び逆転に成功する。さらには代わった今治精華3番手久保から押出四球と暴投により2点を上げこの回計4点を奪う。点差を広げたい日本ウェルネスは8回相手のミスにより2点を追加する。追い込まれた今治精華は9回一死から代打藤田(宗)が安打で出塁するも後続が断たれ試合終了。6安打ながら四死球や相手のミス効率よく得点につなげた日本ウェルネスが6-1で勝利した。一方敗れた今治精華は8四死球を選ぶなど粘り強く攻撃を続けるも10残塁と攻撃の決め手を欠き無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ 川崎市立橘高等学校 対 クラーク記念国際高等学校広島 通信制

■球場 江戸川区球場 第2試合 1回戦 ■試合時間 2時間11分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:佐々木 塁審:ワン 山田 渡辺

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
橘	神奈川	1	2	0	0	4	3	1							11	5	5
クラーク広島・通	西中国・広島	1	0	0	0	0	0	0							1	0	4

橘		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7						
1	左		吉田 信太郎	5	3	2	1	遊失	左3		捕邪	三振		中2						
2	投		相澤 奨吾	4	0	2	1	左2	一邪		三飛		左安	四球						
3	捕		野村 昇吾	3	1	0	0	死球	三失			四球	中飛	三振						
4	遊		大野 希海	3	2	0	0	三振	投飛			四球	死球	遊ゴ						
5	一		相澤 駿斗	2	2	1	0	三振		四球		三安	四球							
5		打	岡崎 巧	1	0	0	0							三振						
5		一	末次 和昭	0	0	0	0													
6	中		井上 航聖	1	2	0	0	四球		三振		四球	四球							
7	三		小俣 優斗	3	0	0	0	三振		三振		四球	三失							
8	右		大羽 空	3	0	0	0		三振	三振		捕邪	死球							
9	二		谷口 明	3	1	0	1		四球		三振	遊ゴ	三振							
合計				28	11	5	3	残塁:9 併殺:1												
				備考																

■バッテリー

投手
相澤 奨吾

捕手
野村 昇吾

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
相澤 奨吾	7	26	0	9	4	0

クラーク広島・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7						
1	遊		山口 修人	2	1	0	0	二失		三失		投犠								
2	投	中	山根 大地	3	0	0	0	三振		三振		投飛								
3	二		細見 幹明	2	0	0	0	四球		一邪			左飛							
4	中	投	東 泰成	3	0	0	0	捕邪		一邪			三振							
5	捕		寺尾 匠未	3	0	0	0	三振				中飛	三振							
6	左		土居 裕汰	2	0	0	0		三振		三振			死球						
7	一		井藤 竣介	2	0	0	0		遊ゴ		三失			四球						
8	右		尾崎 海音	1	0	0	0		四球		三振									
8		打	日浦 作習	1	0	0	0							投ゴ						
9	三		河野 友希	2	0	0	0		三振				遊失							
合計				21	1	0	0	残塁:4 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手
山根 大地
東 泰成

捕手
寺尾 匠未

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
山根 大地	6	36	4	10	12	2
東 泰成	1	5	1	2	1	0

■戦評

1回戦江戸川球場の第2試合は、初出場の神奈川県代表・川崎市立橘高校と3年連続4回目出場の西中国地区代表・広島県クラーク記念国際高校・広島・通信制の対戦となった。初回両チームとも失策で出塁した走者を得点につなげ1点ずつを奪う。2回橘は一死一塁から1番吉田が左翼へ適時三塁打を放つと自らも敵失により生還しこの回2点を勝ち越す。再び試合が動いたのは5回、橘は無死一塁から5番相澤(奨)が三塁線に絶妙なバントを転がすと二塁走者野村の好走塁と相手のミスにより二者が生還する。その後も四球で出塁した走者が巧みな走塁を見せ2点を追加する。攻撃の手を緩めない橘は6回四球に足を絡めた攻撃で3点を奪うと7回にも1点を加え試合を決めた。橘は先発相澤(奨)がクラーク記念国際・広島打線を無安打に抑える好投を見せ7回コールド11-1で勝利した。一方敗れたクラーク記念国際・広島先発山根は相手を上回る10個の三振を奪う力投を見せたが12死球と制球を乱し投手の制球力の差が明暗を分ける結果となり、無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ キラリ高等学校 通信制 対 宮崎県立延岡青朋高等学校 定時制通信制

■球場 江戸川区球場 第3試合 1回戦 ■試合時間 1時間20分 ■備考 5回コールド

■審判 球審:河村 塁審:山田 加藤 佐々木

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5									計	安	失
延岡青朋	東九州・宮崎	0	6	0	0	0									6	2	5
キラリ・通	山静・静岡	10	0	3	1	2x									16	10	1

延岡青朋

	ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	2	3	4	5					
1	投	捕	小野賢辰	3	1	0	0	二ゴ	三併			遊併						
2	三		金井優斗	2	0	0	0	三振	三振			四球						
3	捕	遊	北川昂嗣	3	0	1	1	遊ゴ	左3			三ゴ						
4	一		山本永遠	2	1	0	0		死球	二飛			捕邪					
5	二		甲斐大地	1	1	0	0		死球		四球		三振					
6	右		竹内優剛	2	1	0	0		死球		三振		三振					
7	左		稲田楓大	1	0	0	1		四球		三振							
8	中		柳田龍人	1	1	0	1		死球		三振							
9	遊	投	坂本倅起	1	1	1	1		死球			左安						
合計				16	6	2	4	残塁:3 併殺:0										
備考																		

■バッテリー

投手
小野賢辰
坂本倅起

捕手
北川昂嗣
小野賢辰

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
小野賢辰	1	14	5	3	4	1
坂本倅起	3 1/3	19	5	5	3	3

キラリ・通

	ポジション		氏名	打	得	安	点	1	1	2	3	4	5					
1	二		柴田拓真	2	2	0	0	遊失	四球		中飛	四球						
2	遊		松本侑禪	3	3	2	1	中2	四球		右2	三振						
3	三		山本将吾	3	3	2	2	四球	右2		中2		遊ゴ					
4	捕		油井奎弥	4	3	4	4	左安	遊安		左2		左2					
5	右		岸端秀晴	3	2	1	1	四球	三振		三振		右安					
6	中		内田徳人	4	0	0	0	三振		三振	遊ゴ		遊失					
7	一		山本海斗	1	2	0	0	三失		四球		四球						
8	左		川邊大也	3	0	0	0	三振		投ゴ		遊ゴ						
9	投		粟本滝太	3	1	1	2	左3		三振		三振						
合計				26	16	10	10	残塁:4 併殺:1										
備考																		

■バッテリー

投手
粟本滝太

捕手
油井奎弥

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
粟本滝太	5	24	2	7	8	5

■戦評

1回戦江戸川球場の第3試合は、3年連続3回目出場の山静地区代表・静岡県キラリ高校・通信制と初出場の東九州地区代表・宮崎県立延岡青朋高校・定時制通信制連合チームの対戦となった。キラリは初回相手先発の立ち上がりを攻め2番松本の適時二塁打で先制すると4番油井の適時安打9番粟本の適時三塁打などこの回打者14人の猛攻で10点を奪う。序盤のうちに点差を縮めたい延岡青朋は2回、突如制球を乱した相手先発から6者連続で四死球を選び3点を返すと満塁から相手のミスにより2点を追加する。さらに3番北川が適時三塁打を放ち1点を奪い10-6と追い上げる。引き離したいキラリは3回2番松本3番山本4番油井の三者連続二塁打などで3点を上げると4回に1点を追加。さらに5回5番岸が適時内野安打を放つと、次打者の内野ゴロで相手の守備が乱れる間に一気に生還し試合を決めた。3回以降先発が立ち直りを見せ相手に追加点を許さなかったキラリが5回コールド16-6で勝利した。一方敗れた延岡青朋は4失策に5個のバッテリーエラーと守りのミスが目立ち大量失点につながってしまったのが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ

天理高等学校 対 東京都立八王子拓真高等学校

■球場 稲城中央公園野球場 第1試合 1回戦

■試合時間 2時間14分 ■備考

■審判 球審:竹本 塁審:菊池 粟村哲志 鈴木(礼)

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
八王子拓真	東京1	0	0	1	0	0	0	0	0	0					1	3	1
天理	近畿・奈良	2	2	0	0	0	0	0	3	×					7	9	1

八王子拓真

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	投	内藤 龍之介	4	0	0	0	三振		三振		左飛			一ゴ				
2	三	小野 充輝	4	0	0	0	右飛		中飛			三邪			三ゴ			
3	中	高橋 優也	4	0	1	0	右安			右飛		投ゴ			三振			
4	遊	佐藤 秀斗	3	0	0	0	投ゴ			四球		二ゴ			三ゴ			
5	捕	緒方 周守	3	0	0	0		一邪		右飛				三ゴ				
6	右	鎌田 拓斗	3	0	0	0			三振		三飛							
7	左	横田 俊輔	3	0	1	0		投直			右安			三振				
8	一	永田 大輝	3	1	1	0			中ゴ		投併			投ゴ				
9	二	渡邊 郁矢	1	0	0	0			三ゴ									
9	打	国吉 大生	0	0	0	0					四球							
9		櫻田 和宏	1	0	0	0								遊ゴ				
9		市川 昭次郎	0	0	0	0												
合計			29	1	3	0	残塁:3 併殺:1											

備考

■バッテリー

投手
内藤 龍之介
櫻田 和宏
小野 充輝
内藤 龍之介

捕手
緒方 周守

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
内藤 龍之介	6	32	7	1	9	4
櫻田 和宏	1 0/3	6	1	0	2	1
小野 充輝	0/3	3	0	0	3	2
内藤 龍之介	2/3	4	1	1	0	0

天理

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	遊	片山 幸輔	4	1	3	0	左2	四球		右2		二安	遊ゴ					
2	右	平野 雄大	2	2	1	1	三安	四球		四球		投ゴ		四球				
3	中	窪田 正喜	2	0	1	1	一邪	中犠		四球		中安		四球				
4	左	森口 信宏	2	1	0	1	左犠	左飛		三邪		四球		四球				
5	三	岡田 民生	4	1	2	2	左2		投飛		中安	二ゴ		四球				
6	一	浅見 紫歌	4	0	0	0	三ゴ		捕飛		投犠		投飛	遊ゴ				
7	投	伊藤 慎介	4	1	2	2		四球	捕邪		投ゴ		中安	中安				
8	二	邊田 三嗣	1	0	0	0		三振		四球	四球		四球					
8		椿井 友哉	1	0	0	0								投ゴ				
8		清水 勇人	0	0	0	0												
9	捕	原田 成人	2	1	0	0		四球		三犠	捕邪		投犠	三振				
合計			26	7	9	7	残塁:14 併殺:1											

備考

■バッテリー

投手
伊藤 慎介

捕手
原田 成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
伊藤 慎介	9	31	3	5	2	0

■戦評

1回戦稲城中央公園野球場の第1試合は、前年度優勝校・近畿地区代表・奈良県天理高校と前年度準優勝校・東京都第1代表・都立八王子拓真高校という前年度の決勝戦と同じ顔合わせとなった。天理は初回一死一三塁の好機に4番森口が左翼へ犠飛を打ち手堅く1点を先制すると5番岡田も適時二塁打を打ち1点を追加する。続く2回今度は相手先発の制球の乱れを逃さず4四球と犠飛により無安打ながら2点を奪い試合の主導権を握る。対する八王子拓真は3回8番永田が中堅越三塁打を打ち相手の中継が乱れる間に生還し1点を返す。4回以降得点圏に走者を進めながら追加点を奪えずにいた天理は8回4連続四球により1点を奪うと、なお一死満塁の好機にここまで好投を続ける先発伊藤が自ら2点適時安打を打ち試合を決めた。伊藤は投げては八王子拓真打線を散発の3安打に抑え得点を奪われた3回以外は二塁すら踏ませない圧巻の投球を見せた。1回戦屈指の好カードは投手に八王子拓真を圧倒した天理が7-1で勝利した。一方敗れた八王子拓真は登板した三投手が計14四球と投手陣が持ち味を発揮できず無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ クラーク記念国際高等学校 京都 通信制 対 清和学園高等学校 通信制

■球場 稲城中央公園野球場 第2試合 1回戦 ■試合時間 2時間03分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:栗村 塁審:鈴木(礼) 竹本 菊池

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
清和学園・通	埼玉	4	0	0	2	0	2	0							8	8	1
クラーク京都・通	京都	0	0	0	0	0	0	1							1	9	3

清和学園・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	二	磯部 翔海	3	0	0	0	四球	三振	三振		四球		遊ゴ				
2	中	榎本 瑠輔	4	2	1	0	投ゴ	三安		三失	三ゴ		四球				
3	投	鈴木 翔悟	4	2	2	2	中3	四球		左2			遊ゴ	遊併			
4	遊	大日向 礼央	2	1	1	1	中安	遊飛		四球			四球				
5	捕	石川 拓哉	4	1	0	0	三振	三振		三振			遊ゴ				
6	一	新井 翔太	3	2	2	2	右安		四球	二失			中安				
7	三	田端 優貴	4	0	2	2	中安	遊ゴ	三振				右2				
8	左	石塚 拓海	1	0	0	0	四球		四球			三ゴ	死球				
9	右	奥石 拓己	4	0	0	0	三振		三振			遊直	三振				
合計			29	8	8	8	残塁:10 併殺:0										

備考

■バッテリー

投手
鈴木 翔悟

捕手
石川 拓哉

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
鈴木 翔悟	7	33	9	8	4	0

クラーク京都・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	投	片岡 風心	4	1	4	0	遊安		左安	右安		遊安					
2	遊	小野 駿太	3	0	0	0	三振		三振	四球		投ゴ					
3	二	光山 尚典	4	0	2	0	左2		左飛	捕邪		左安					
4	捕	吉村 陸	4	0	0	0	投飛			三ゴ	三ゴ		三失				
5	三	松田 徳	3	0	1	0		三ゴ		一安	三ゴ		四球				
6	一	山本 将大	3	0	0	0		投飛		四球		遊飛	三振				
7	中	森本 恭広	3	0	2	0		二安		二安		三振					
8	左	和山 雪菜	3	0	0	0		三振		三振		投ゴ					
9	右	石野 俊斗	2	0	0	0			四球	三振			三振				
合計			29	1	9	0	残塁:11 併殺:1										

備考

■バッテリー

投手
片岡 風心

捕手
吉村 陸

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
片岡 風心	7	39	8	9	10	5

■戦評

1回戦稲城中央公園野球場の第2試合は、初出場の京都府代表・クラーク記念国際高校・京都・通信制と10年ぶり2回目出場の埼玉県代表・清和学園高校・通信制の対戦となった。清和学園は3番鈴木が適時三塁打で先制すると4番大日向の適時安打により1点を追加する。さらに7番田端の適時安打に相手のミスが重なり2人が生還しこの回計4点を奪う。対するクラーク記念国際・京都は3回先頭の9番石野が四球で出塁すると続く1番片岡が二打席連続となる安打で好機を広げたが後続が断たれ得点を奪えない。4回清和学園は無死二塁から3番鈴木が左翼へ大きな飛球を放つも打球はこの日球場に時折吹いた強い逆風に押し戻されワンバウンドでフェンスを越え適時二塁打となったが、敵失の間に自らも生還し貴重な追加点を奪う。6回に清和学園が2点を追加し8-0で迎えた7回、クラーク記念国際・京都は一死一塁から主将光山が安打でつなぎ敵失により1点を返すが反撃もここまで。鈴木は投打による活躍が光った清和学園が7回コールド8-1で勝利した。一方敗れたクラーク記念国際・京都は1番片岡が4打数4安打を記録するなどチームで相手を上回る9安打を放つも11残塁と攻撃がかみ合わず無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 青森県立北斗高等学校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 2回戦 ■試合時間 2時間26分 ■備考

■審判 球審:小山 塁審:鈴木(礼) 清水 田島

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
日本ウェルネス・通	東京2	0	0	3	0	1	3	0	0	1					8	11	0
北斗	北東北・青森	0	0	0	0	0	1	0	0	0					1	4	1

日本ウェルネス・通

	ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投	遊			津澤拓実	6	1	2	1	右飛	二ゴ		三振		右2	二飛		右安				
2	二				小松拓毅	3	1	1	0	死球		二ゴ	四球		中安		三振	死球				
3	一	中			坂元レオ	5	1	1	1	四球		投飛	一ゴ		左2		遊飛	三飛				
4	遊	三	投	三	中山隼	5	1	4	1	中安		左3		三振	中3		中安					
5	中	一			大城海人	3	2	1	1	三振		左2		四球	四球		三振					
6	捕				東龍	5	1	1	1	三ゴ		左安		遊ゴ	三振			三振				
7	左				富山義士	3	1	1	0		二ゴ	死球		四球	右飛			中安				
8	右				金木脩祐	3	0	0	0		三振	一ゴ		三振								
8		右			老田翔	2	0	0	0								投ゴ		投ゴ			
9	三	投	三	投	南馬僚介	3	0	0	0		四球		三振		二飛	二ゴ		死球				
合計						38	8	11	5	残塁:13 併殺:0												
備考																						

■バッテリー

投手
津澤拓実
南馬僚介
中山隼
南馬僚介

捕手
東龍

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	5	16	1	6	0	0
南馬僚介	2/3	2	0	1	0	0
中山隼	2 1/3	10	3	5	0	1
南馬僚介	1	3	0	1	0	0

北斗

	ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	三				佐々木快斗	4	1	1	0	一ゴ			三振		右安		一邪					
2	二	遊			阿部夏宇	3	0	2	1	投ゴ			中安		中安							
2			打		有馬光輝	1	0	0	0										三振			
3	捕				芳賀麗児	4	0	0	0	二ゴ			三飛		二ゴ				二直			
4	投	右			赤坂友翼	1	0	0	0		二ゴ		三振				三振					
4			打		高木麻央	3	0	0	0										投ゴ			
5	一				千葉真之介	3	0	1	0		投直			三振		左安						
6	右	二			山田勇希	3	0	0	0		三振			二ゴ		三振						
7	遊	投			清藤裕隆	3	0	0	0			三飛		一飛		三振						
8	左				木津怜巳	3	0	0	0			三振			一ゴ		三振					
9	中				太田来夢	3	0	0	0			三振			三振		三振					
合計						31	1	4	1	残塁:3 併殺:0												
備考																						

■バッテリー

投手
赤坂友翼
清藤裕隆

捕手
芳賀麗児

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
赤坂友翼	5	26	4	6	7	3
清藤裕隆	4	22	7	4	3	4

■戦評

2回戦神宮球場の試合は、1回戦を中盤以降の集中打により逆転で制した日本ウェルネス高校・通信制と3年ぶり21回目出場の北東北地区代表・青森県立北斗高校の対戦となった。試合が動いたのは3回、日本ウェルネスは二死から4番中山の三塁打を皮切りに三連打と暴投により3点を先制すると5回到相手のミスから1点を追加し試合を優位に進める。6回表日本ウェルネスはこの回から救援した北斗2番手清藤を攻め1番津澤が右翼越エンタイトル二塁打を放つと、2番小松が中堅前安打3番坂元は左翼越二塁打4番中山も右中間への適時二塁打と打線が見事につながり4連打で3点を奪い7-0と点差を広げる。反撃したい北斗はその裏簡単に二死を奪われるがここで登板した日本ウェルネス3番手中山から1番佐々木が安打で出塁すると暴投の間に一気に三塁を陥れる。ここで2番阿部が中堅へ適時安打を放つも後続を断たれこの回1点を返すにとどまる。試合は9回にも1点を追加した日本ウェルネスが8-1で勝利しベスト8に進出した。一方敗れた北斗は打線が日本ウェルネス投手陣の前に4安打13三振と完全に抑え込まれ無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ

沖縄県立泊高等学校 通信制 対 石川県立小松北高等学校

■球場 府中市民球場 第1試合 2回戦

■試合時間 2時間41分 ■備考

■審判 球審:須田 塁審:粟村 山田 河村

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
泊・通	沖縄	0	2	3	0	2	4	2	0	0					13	12	5
小松北	北陸・石川	3	1	1	1	0	1	2	0	1					10	10	10

泊・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	遊	投	内間 安恒	5	1	0	0	三失	投ゴ		中飛		四球	一邪		三失				
2	中	遊	田端 大夢	6	3	2	1	三振		二失	三振		投安	右2		二ゴ				
3	右		当山 貴久	5	3	2	2	投ゴ		中2		中安	遊選	投飛		打妨				
4	捕		玉城 翔大	6	1	1	2	投ゴ		右3		三振	遊選	三振		投ゴ				
5	一		玉城 凌賀	5	1	1	4		遊失	捕ゴ		遊ゴ	右安		三失					
6	三		具志 隆一郎	5	2	2	0		遊安	二ゴ		右3	三振		一ゴ					
7	左		砂川 将平	5	0	1	1		三振	三振		中安	中飛		投ゴ					
8	二		比嘉 優貴	4	0	2	1		左2		左安	三ゴ	三振							
8		打中	譜久島 利勇	1	0	0	0								三振					
9	投	二	山城 海人	5	2	1	0		三振		三振		中安	一失		三振				
合計				47	13	12	9	残塁:9 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
山城 海人
内間 安恒

捕手
玉城 翔大

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
山城 海人	7	41	10	8	8	4
内間 安恒	2	9	0	0	3	1

小松北		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	捕		橋本 大希	4	3	2	1	四球	四球	三安		三邪		中安	三ゴ					
2	中		新郷 翔貴	4	2	0	0	三振	投失	三振		三ゴ		死球		四球				
3	投		長濱 透和	6	1	2	1	二ゴ	三ゴ		三失		左安	右安		中飛				
4	遊		中嶋 晋	4	2	3	2	右安	四球		三ゴ		中安	右安		中犠				
5	三		森瀬 パウロ	4	1	1	0	左安	三振		死球		二失	死球		投ゴ				
6	一		森 海斗	4	0	2	1	死球		右安	右安		二ゴ		三ゴ					
7	左		坂中 亮太	3	1	0	1	四球		右ゴ	三振		三振		四球					
8	右		源田 寿和	3	0	0	0	三振		投ゴ	三振									
8		右	松尾 飛勇	1	0	0	0							三振	四球					
9	二		今井 雄貴	5	0	0	0		三ゴ	一失		三ゴ		投ゴ	遊飛					
合計				38	10	10	6	残塁:13 併殺:												
備考																				

■バッテリー

投手
長濱 透和

捕手
橋本 大希

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
長濱 透和	9	49	12	12	1	9

■戦評

2回戦府中球場の第1試合は、30年ぶり3回目出場の沖縄県代表・県立泊高校・通信制と1回戦を主戦長濱の力投により制した石川県立小松北高校の対戦となった。試合は序盤から激しい点の取り合いとなった。小松北は初回4番中嶋の適時安打や押出などにより3点を先制すると2回3回に相手のミスを逃さず1点を追加する。一方の泊も2回8番比嘉の適時二塁打などで2点を返すと3回3番当山4番玉城(たましろ)の連続適時安打などで3点を奪う。5-5で迎えた4回小松北は6番森の適時安打で1点を勝ち越すが、5回泊が7番砂川の適時安打などで2点を奪い再び逆転に成功する。勢いに乗った泊は6回5番玉城(たまき)の2点適時安打などで4点を奪うと7回にも2点を追加し点差を広げる。粘る小松北も6回に1点7回に3番長濱の適時安打などで2点を返すと、9回4番中嶋の犠飛により1点を奪うが反撃もここまで。両チーム合わせて22安打23得点の乱打戦は13-10で泊が勝利し、ベスト8に進出した。一方この試合は大量失点を喫したものの2試合18イニングを1人で投げ抜き37奪三振を記録した小松北主戦長濱の投球は実に見事であった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ

福岡県立ひびき高等学校 対 川崎市立橘高等学校

■球場 府中市民球場 第2試合 2回戦

■試合時間 2時間06分 ■備考 8回コールド

■審判 球審:谷川 塁審:河村 松山 栗村

中断3分

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8						計	安	失
橘	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0						0	4	2
ひびき	福岡	0	2	0	0	0	2	2	1x						7	10	1

橘		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8						
1	左		吉田 信太郎	3	0	1	0	三振		死球			三振		三安						
2	投	二	相澤 奨吾	4	0	0	0	一失		二飛			二飛		二飛						
3	捕		野村 昇吾	3	0	0	0	三振		三振			三振								
4	遊		大野 希海	3	0	0	0	遊ゴ			中飛			三振							
5	一		相澤 駿斗	3	0	0	0		三飛		一ゴ			三振							
6	中		井上 航聖	3	0	2	0		中飛		二安			右安							
7	三		小俣 優斗	3	0	0	0		捕邪				三振	捕邪							
8	右		大羽 空	2	0	0	0			三ゴ		一飛			四球						
9	二	投	谷口 明	3	0	1	0			左安		三振			捕邪						
合計				27	0	4	0	残塁:5 併殺:0													
備考																					

■バッテリー

投手
相澤 奨吾
谷口 明

捕手
野村 昇吾

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
相澤 奨吾	7	33	7	2	6	6
谷口 明	2/3	5	3	1	1	1

ひびき		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8						
1	二		高井 直輝	4	0	0	0	二ゴ	三飛			遊失		左直	四球						
2	遊		山本 龍斗	5	1	2	1	遊飛		遊飛		左飛		左安	遊安						
3	捕		古田 聖矢	4	1	2	1	遊直		三ゴ			中2	中安							
4	投		富永 将吾	3	2	2	0		中2	左飛			四球	左安							
5	左		西田 豪太	3	1	0	1		四球		三振		投ゴ	遊ゴ							
6	一		光安 慶人	3	1	0	0		四球		遊飛		遊ゴ	三ゴ							
7	右		今井 優太	2	0	0	1		右犠		二ゴ		四球		三振						
8	中		岩藤 友嘉	3	0	2	1		三安			三振	四球		投安						
9	三		松浦 玲音	3	1	2	2		遊安			三ゴ	四球		投安						
合計				30	7	10	7	残塁:8 併殺:0													
備考																					

■バッテリー

投手
富永 将吾

捕手
古田 聖矢

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
富永 将吾	8	29	4	9	2	0

■戦評

2回戦府中球場の第2試合は、初出場の福岡県代表・県立ひびき高校と1回戦を磐石の試合運びによりコールドで制した川崎市立橘高校の対戦となった。2回ひびきは7番今井の犠飛と9番松浦の適時内野安打により2点を先制する。試合はひびき富永、橘相澤(奨)の両先発投手が持ち味を発揮し2-0のまま中盤を迎える。再び試合が動いたのは6回、ひびきは先頭の3番吉田の二塁打を足がかりに好機を作ると8番岩藤9番松浦が連続で押出四球を選び2点を追加する。勢いに乗ったひびきは7回2番山本3番古田4番富永の三連打などで2点を追加すると8回2番山本の適時内野安打で1点を加え7点差をつけ試合を決めた。投げては先発富永が4回以降相手打線に二塁すら踏ませない圧巻の投球を見せ、投打に相手を圧倒したひびきが8回コールド7-0で勝利し、ベスト8に進出した。一方敗れた橘は相手投手の前になかなか走者を出せず1回戦で見せた隙のない走塁で相手をかき回すことができなかった。また安定した守備を武器に粘り強く戦っていただけに終盤の守りのミスが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ

キラリ高等学校 通信制 対 新潟連合

■球場 府中市民球場 第3試合 2回戦

■試合時間 2時間30分 ■備考 中断2分

■審判 球審:山田 塁審:松山 須田 谷川

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
キラリ・通	山静・静岡	0	0	0	1	2	0	0	3	2	8	7	3
新潟連合	信越・新潟	0	2	0	0	0	0	1	1	1	5	5	1

キラリ・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	二投	柴田 拓真	4	1	1	0	遊ゴ		四球	右安		三ゴ	三振					
2	遊	松本 侑禅	4	1	0	0	三ゴ		左飛		四球	三振		三振				
3	一	山本 将吾	4	1	0	0	三振			三ゴ	三ゴ	三振		四球				
4	捕	油井 奎弥	4	3	3	2		右飛	左3	右安			四球	中3				
5	中	岸端 秀晴	4	1	1	1		三ゴ		三振	中犠		中安	投ゴ				
6	三	内田 徳人	4	1	0	0			三振		二失	三振		四球	遊ゴ			
7	左	川邊 大也	4	0	2	0			三振	右安		二飛		二安				
8	右	坂本 拓海	2	0	0	1			四球	三振		投ゴ		四球				
9	投二	粟本 滝太	3	0	0	0			三振		四球	二ゴ		三振				
合計			33	8	7	4	残塁:7 併殺:0											
備考																		

■バッテリー

投手
粟本 滝太
柴田 拓真

捕手
油井 奎弥

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
粟本 滝太	5	25	3	6	6	2
柴田 拓真	4	19	2	2	3	1

新潟連合

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	二	丸山 虎之介	5	0	1	2	三振	中安		投ゴ		一ゴ		遊飛				
2	投	上野 一輝	4	1	0	0	一邪	投犠		三振			右失	一ゴ				
3	遊	笹岡 希朱	3	0	0	0	四球	投飛		三ゴ			四球	遊飛				
4	中	五十嵐 大輝	3	1	0	0	四球		一失		二飛		中飛	死球				
5	捕	新井 海士音	4	0	2	2	四球		三ゴ		一失		右安		左3			
6	右	壘 凌二	2	0	0	0	三振		四球		三振							
6		岩野 太陽	2	0	0	0							三振		三振			
7	一	栗林 里帆	4	1	0	0		四球	三振		投邪		捕邪		遊邪			
8	左	瀧澤 一真	1	0	0	0		三振		死球								
8	左	鈴木 文也	3	1	0	0						三飛		遊失	遊ゴ			
9	三	佐藤 翔太	3	1	2	0		右安		左安		投ゴ		四球				
合計			34	5	5	4	残塁:12 併殺:0											
備考																		

■バッテリー

投手
上野 一輝
五十嵐 大輝

捕手
新井 海士音

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
上野 一輝	7 0/3	31	4	9	5	3
五十嵐 大輝	2	11	3	3	3	3

■戦評

2回戦府中球場の第3試合は1回戦を大量得点によるコールドで制したキラリ高校・通信制と2年連続2回目出場の新潟県新潟連合の対戦となった。2回新潟連合は一死二三塁から1番丸山が中堅へ安打を打ち二人が生還し先制する。対するキラリは4回4番油井がチーム初安打となる三塁打で出塁すると敵失の間に生還し1点を返す。5回一死満塁から4番油井の適時安打により同点に追いつき5番岸畑が中堅へ犠飛を打ち逆転に成功する。7回新潟連合は敵失で出塁した走者を得点圏に置き5番新井の適時安打により同点に追いつく。引き離したいキラリは8回この回途中から救援した新潟連合2番手五十嵐を攻め2安打2四球と3つのバッテリーエラーにより3点を勝ち越すと9回にも2点を追加した。粘る新潟連合も8回相手のミスから1点を返すと9回無死一塁から5番新井が二打席連続適時安打となる三塁打を打ち最後の粘りを見せるも後続が断たれ試合終了。キラリが8-5で競り勝ちベスト8に進出した。一方敗れた新潟連合は終盤に得点を奪った後、続く好機に追加点を奪えず試合の流れを引き寄せきれなかったことが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ 福島県立いわき翠の杜高等学校 対 愛知県立刈谷東高等学校

■球場 江戸川区球場 第1試合 2回戦 ■試合時間 2時間19分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:鈴木(優) 塁審:竹本 大和 濱野

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
いわき翠の杜	南東北・福島	0	0	2	3	0	2	0							7	8	7
刈谷東	東海・愛知	4	4	2	0	1	4	x							15	15	3

いわき翠の杜		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	遊		柴田 奎 弥	4	2	1	0	三ゴ		遊ゴ	四球		一安	投飛				
2	捕		新妻 孝 弘	4	3	1	0	遊ゴ		遊安	遊ゴ		死球	三振				
3	二		馬 上 凌	4	1	3	1	右安		二安	三安		投ゴ					
4	投		生田目 陸	4	0	3	5	遊ゴ		一安	左2		中安					
5	一		遠藤 巧 斗	3	0	0	0		三振	三振	右飛		死球					
6	三		後藤 泰 陽	2	0	0	0		一失	四球			四球	三ゴ				
7	右		大武 春 香	4	0	0	0		三振	三振			三振	二ゴ				
8	左		横沢 侑 生	3	0	0	0		三振		三ゴ	三振		死球				
9	中		會川 青 空	2	1	0	0			死球	三失	二飛		四球				
合計				30	7	8	6	残塁:10 併殺:0										
備考																		

■バッテリー

投手
生田目 陸

捕手
新妻 孝 弘

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
生田目 陸	6	42	15	10	4	10

刈谷東		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	中		増本 海 人	5	3	3	0	三振	中安	三安	遊ゴ		投安					
2	右	遊	垣 瀨 拓 人	5	4	4	3	中安	左安	中本	遊ゴ		中安					
3	左		河 野 舜	4	4	2	0	左安	死球	三振		左2	遊失					
4	捕		小栗 雅 仁	5	2	2	2	中安	遊選	遊失		三振	遊安					
5	三		西村 寛 輝	4	2	2	3	死球	中安	二失		三失	中3					
6	遊	投	日比 俊 希	5	0	1	1	捕邪	中安	二飛		遊ゴ	遊ゴ					
7	投	右	吉水 竜 彦	3	0	1	1	中安	死球	三ゴ		三振						
8	一		山崎 快	3	0	0	0	四球	三振		一失		三振					
9	二		岩月 桃 香	4	0	0	0	三振	三振		三振		三振					
合計				38	15	15	10	残塁:9 併殺:1										
備考																		

■バッテリー

投手
吉水 竜 彦
日比 俊 希

捕手
小栗 雅 仁

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
吉水 竜 彦	5	27	6	7	4	2
日比 俊 希	2	11	2	1	4	2

■戦評

2回戦江戸川球場の第1試合は、1回戦を中盤の大量得点により制した福島県立いわき翠の杜高校と二桁得点によるコールドで制した愛知県立刈谷東高校の対戦となった。試合は序盤から刈谷東が前日の打線の勢いそのままに得点を重ねる。初回2番垣瀨からの三連打など打者9人の猛攻で4点を先制すると2回も5番西村6番日比の連続適時安打など打者9人の攻撃で4点を追加する。さらに3回無死一塁から2番垣瀨がランニング本塁打を打ち2点を加え序盤3回で大量10得点を奪う。一方のいわき翠の杜は3回に適時安打と暴投により2点を返すと4回4番生田目の2点適時二塁打などにより3点を奪う。刈谷東が5回に1点を追加し11-5で迎えた6回いわき翠の杜は4番生田目がこの試合3安打目となる2点適時安打を打ち4点差としたが、その裏刈谷東は4安打と敵失により4点を加え試合を決めた。9安打11得点を記録した上位打線の活躍により刈谷東が7回コールド15-7で勝利し、ベスト8に進出した。一方敗れたいわき翠の杜は4番生田目が3安打5得点と主砲として存在感を示したが、7失策と要所での守りのミスが目立ち無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ 佐賀県立佐賀北高等学校 通信制 対 兵庫県立飾磨工業高等学校
 ■球場 江戸川区球場 第2試合 2回戦 ■試合時間 2時間37分 ■備考 7回コールド
 ■審判 球審:菊池 塁審:森井 渡辺 大和

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
飾磨工業	兵庫	1	2	1	0	4	0	1							9	8	0
佐賀北・通	西九州・佐賀	1	0	1	0	0	0	0							2	2	3

飾磨工業		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	捕		塩田 涼	3	2	2	0	中安	死球		死球	左2		三振				
2	投	中	福田 悠平	4	0	0	2	右飛	投ゴ		四球	二ゴ		三振				
3	中	投	山田 瑠	4	0	2	1	右3	一ゴ		四球	中飛		左2				
4	三		多田 羅大輔	4	1	1	0	三振		中安	右飛		四球	左飛				
5	二		小路 和輝	3	0	0	0	一邪		遊飛	三邪		四球					
6	遊		安井 杏耶	1	2	0	0		四球	遊飛		四球	三犠					
7	一		福田 幸基	2	2	0	0		四球	四球		二失	右飛					
8	右		古野 童夢	3	0	0	0		投犠	二飛		三振	三ゴ					
8		右	伊賀 神一郎	0	0	0	0											
9	左		山本 倫守	4	2	3	4		中安		三振	中安		一安				
合計				28	9	8	7	残塁:10		併殺:1								

備考

■バッテリー

投手
福田 悠平
山田 瑠

捕手
塩田 涼

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
福田 悠平	5	24	2	6	7	2
山田 瑠	2	10	0	3	5	0

佐賀北・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	投	二遊	園田 輝	2	0	0	0	四球	三振		三振		四球					
2	遊	投	江頭 憂哉	3	1	0	0	遊ゴ	三振			右飛	四球					
3	一		江越 泰心	3	1	1	0	四球		右3		三振	三振					
4	捕		森 裕輔	0	0	0	0	四球		四球		四球		死球				
5	中		佐藤 真悟	3	0	0	0	三飛		三邪		四球		三振				
6	右	投	後藤 永次	4	0	1	1	中安		三ゴ		左飛		三ゴ				
7	左		平松 直樹	2	0	0	0	投ゴ		遊飛			四球					
7		打	城野 隆弘	1	0	0	0							三振				
8	三		梅野 賢斗	2	0	0	0		四球		三振		投併					
9	二	右二	能隅 祐樹	2	0	0	0		三振		中飛		死球					
合計				22	2	2	1	残塁:11		併殺:0								

備考

■バッテリー

投手
園田 輝
後藤 永次
江頭 憂哉

捕手
森 裕輔

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
園田 輝	3 1/3	21	4	2	7	3
後藤 永次	1 1/3	8	2	1	1	1
江頭 憂哉	2 1/3	11	2	2	2	1

■戦評

2回戦江戸川球場の第2試合は1回戦を三投手による巧みな継投で逃げ切り勝利した佐賀県立佐賀北高校・通信制と2年連続2回目出場の兵庫県代表・県立飾磨工業高校の対戦となった。初回先攻の飾磨工業は先頭の塩田が安打で出塁するとすかさず二盗を決め、さらに三盗を狙い相手の守備が乱れる間に本塁を陥れ先制する。その裏佐賀北は満塁の好機に6番後藤が適時安打を打ちすぐさま同点に追いつく。2回飾磨工業は無死一二塁から8番古野が手堅く犠打を決め好機を広げ9番山本が適時安打を打ち2点を勝ち越す。3回表飾磨工業は相手のミス逃さず1点を追加するがその裏佐賀北も3番江越が三塁打を打ち相手の守備が乱れる間に生還し1点を返す。飾磨工業は5回9番山本の2点適時安打で追加点を奪うと、なお一死二三塁から内野ゴロの間に二者が生還する好走塁を見せこの回計4点を加え7回にも1点を追加し試合を決めた。飾磨工業は4回以降佐賀北の攻撃を無安打無得点に抑え7回コールド9-2で勝利し、ベスト8に進出した。一方敗れた佐賀北は6回の攻撃で4つの四死球を選びながら無得点に終わり点差を縮められなかったことが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ

飛鳥未来高等学校 札幌 通信制 対 天理高等学校

■球場 江戸川区球場 第3試合 2回戦

■試合時間 1時間55分 ■備考 6回コールド

■審判 球審:渡辺 塁審:濱野 菊池 鈴木(優)

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6								計	安	失
天理	近畿・奈良	0	1	4	0	1	4								10	6	0
飛鳥未来札幌・通	北海道	0	0	0	0	0	0								0	0	2

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	3	4	5	6				
1	遊		片山 幸輔	3	0	0	2	四球	一ゴ	死球			遊ゴ	左飛				
2	右	中	平野 雄大	4	0	2	4	二ゴ	投ゴ	四球			投安	中2				
3	中		窪田 正喜	2	1	0	0	四球		四球	中飛		四球	二ゴ				
3		右	椿井 友哉	0	0	0	0											
4	左		森口 信宏	2	1	0	0	四球		四球		中直	左飛					
5	三	投	岡田 民生	3	2	2	0	三邪		二安		中安		四球				
6	一		浅見 紫歌	3	1	0	1		中飛	左犠			三ゴ	三選				
7	二		西川 道男	2	2	0	0		四球	四球		投ゴ		捕邪				
7		三	清水 勇人	0	0	0	0											
8	投		堀部 陸	3	1	1	1		四球	遊飛			遊飛	左安				
8		二	高柳 枝理	0	0	0	0											
9	捕		原田 成人	2	2	1	0		四球	四球			三失	中安				
合計				24	10	6	8	残塁:11 併殺:0										
備考																		

■バッテリー

投手
堀部 陸
岡田 民生

捕手
原田 成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
堀部 陸	5	17	0	3	2	0
岡田 民生	1	3	0	1	0	0

飛鳥未来札幌・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6					
1	左	投	佐々木 孝啓	3	0	0	0	捕邪		投ゴ			三ゴ					
2	二		小林 優友	3	0	0	0	遊ゴ			三振		一ゴ					
3	捕		佐々木 一輝	2	0	0	0	二ゴ			三ゴ							
4	投	左	須藤 滉一	1	0	0	0		四球		三振							
5	一		宮崎 駿也	2	0	0	0		一飛				三ゴ					
6	遊		木下 将馬	2	0	0	0		二飛				遊ゴ					
7	三		加賀美 諒	1	0	0	0		三ゴ				四球					
8	中		橘 寛太	2	0	0	0			三振			三ゴ					
9	右		斉藤 大樹	2	0	0	0			右飛				三振				
合計				18	0	0	0	残塁:2 併殺:0										
備考																		

■バッテリー

投手
須藤 滉一
佐々木 孝啓

捕手
佐々木 一輝

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
須藤 滉一	2 1/3	16	1	0	9	5
佐々木 孝啓	3 2/3	23	5	0	5	4

■戦評

2回戦江戸川球場の第3試合は、6年ぶり2回目出場の北海道代表・飛鳥未来高校・札幌・通信制と昨年の決勝戦と同一カードとなった一回戦を完勝した天理高校の対戦となった。2回天理は3つの四球で満塁の好機を作ると1番片山の内野ゴロの間に1点を先制する。その裏飛鳥未来・札幌は先頭の4番須藤が四球により出塁するも後続が抑えられ走者を進めることさえできない。続く3回天理は2つの四球と内野安打により満塁の好機を作ると犠飛により1点を追加する。さらにこの回途中から救援した飛鳥未来・札幌2番手佐々木(一)から2つの押し四死球を選ぶなど隙のない攻撃でこの回計4点を追加する。5回にも1点を追加した天理は6回8番堀部の適時安打と2番平野の2点適時二塁打などにより4点を奪い試合を決めた。一矢報いたい飛鳥未来・札幌であったが天理投手陣の前に無安打と完全に抑え込まれてしまった。投打に相手を圧倒し盤石の試合運びを見せた天理が6回コールド10-0で勝利し、ベスト8に進出した。一方敗れた飛鳥未来・札幌は投手陣が計14四死球と制球を乱し本来の力を発揮できなかったことが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月16日(木) ■天候 晴れ 清和学園高等学校 通信制 対 岡山県立岡山操山高等学校 通信制

■球場 江戸川区球場 第4試合 2回戦 ■試合時間 2時間10分 ■備考 中断2分

■審判 球審:田島 塁審:鈴木(礼) 竹本 清水

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
岡山操山・通	東中国・岡山	0	0	0	1	0	0	2	0	0					3	5	4
清和学園・通	埼玉	0	0	3	0	0	0	2	0	×					5	7	2

岡山操山・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	遊		吉澤 響	4	0	0	0	遊失		二ゴ		投飛		遊失						
2	中	三	神戸 健亮	4	0	0	0	中飛		三ゴ				二ゴ	三振					
3	投		難波 龍斗	4	1	3	0	左安			遊安		中3		投ゴ					
4	捕		横田 榛輝	4	0	1	1	中飛			左2		遊ゴ		遊飛					
5	三		有馬 直人	4	0	0	0	三振			三振		三振		二ゴ					
		右	岡 遼太郎	0	0	0	0													
6	一		石原 慎一郎	3	0	0	0		遊ゴ		投ゴ			遊ゴ		四球				
7	左		大橋 海人	3	0	0	0		三振		三振			死球		三振				
8	右	中	古市 陸	4	1	1	0		三ゴ			遊ゴ		中安		三振				
9	二		安藤 崇汰	4	1	0	0			右飛		三振		投ゴ		右飛				
合計				34	3	5	1	残塁:6 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
難波 龍斗

捕手
横田 榛輝

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
難波 龍斗	8	36	7	7	3	2

清和学園・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	二	右	磯部 翔海	2	2	1	0	投ゴ		三横	四球			三安						
2	中		榎本 瑠輔	4	2	1	0	投ゴ		二ゴ	遊ゴ			左安						
3	投		鈴木 翔悟	4	0	1	0	一ゴ		左飛		二ゴ		二安						
4	遊		大日向 礼央	3	0	1	3		一失	右3		四球		一ゴ						
5	一		新井 翔太	4	0	0	0		三振	三振		遊ゴ		遊ゴ						
6	三		田端 優貴	4	0	0	0		右飛	遊ゴ			三振	三振						
7	捕		石川 拓哉	3	0	0	0		四球		三振		三ゴ		中飛					
8	左		石塚 拓海	4	0	2	0		三ゴ		右3		一安		三振					
9	右		興石 拓己	2	1	1	0			三安	捕邪									
		二	末弘 かなみ	2	0	0	0						投ゴ		三振					
合計				32	5	7	3	残塁:7 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
鈴木 翔悟

捕手
石川 拓哉

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
鈴木 翔悟	9	36	5	9	2	1

■戦評

2回戦江戸川球場の第4試合は1回戦をコールドで制し勢いに乗る清和学園高校・通信制と3年連続12回目出場の東中国地区代表・岡山県立岡山操山高校・通信制の対戦となった。試合が動いたのは3回、清和学園は内野安打と犠打失策により無死一三塁とすると2番榎本の内野ゴロ(記録は捕手の走塁妨害)により1点を先制する。さらに4番大日方が2点適時二塁打を打ち追加点を奪う。対する岡山操山は4回先頭の3番難波が内野安打で出塁するとすかさず二盗を決め4番横田の二塁打により生還し1点を返す。先発の両チーム主戦投手が走者を出しながらも得点を与えぬ粘り強い投球で3-1のまま試合は終盤へ。7回岡山操山は二死二三塁から敵失により二者が生還し同点に追いつく。するとその裏清和学園は先頭の1番磯部が内野安打で出塁すると2番榎本の安打で相手の守備が乱れる間に磯部が一気に本塁を陥れ1点を勝ち越すと内野ゴロの間にもう1点追加する。両チーム主戦の粘投が光った試合はこのまま清和学園が5-3で逃げ切り、ベスト8に進出した。一方敗れた岡山操山の主戦難波は打撃でもチーム5安打中3安打を記録するなど投打にわたる活躍を見せたが、無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ

愛知県立刈谷東高等学校 対 兵庫県立飾磨工業高等学校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 準々決勝 ■試合時間 2時間23分 ■備考

■審判 球審:山田 塁審:谷川 菊池 小山

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
飾磨工業	兵庫	1	0	1	0	0	0	0	6	2	10	5	0
刈谷東	東海・愛知	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	5	7

飾磨工業		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	捕		塩田 涼	4	1	0	0	死球		三邪		三振		一飛	二失	
2	二		小路 和輝	4	1	1	1	投犠		二安		三振			三振	投飛
3	中	投	山田 瑠	4	2	1	0	一ゴ		捕邪		遊飛			左2	四球
4	三		多田羅 大輔	5	2	1	0	二ゴ		遊失				遊失	左安	一失
5	右		山本 倫守	4	1	0	0		三振		三振		中飛		死球	三振
6	遊		安井 杏耶	4	1	1	0		振逃		左飛				捕安	四球
7	一		福田 幸基	3	0	0	1		三振		三振		三ゴ		死球	四球
8	投	中	福田 悠平	4	1	1	2		死球				三失		三ゴ	右安
9	左		伊賀 神一郎	2	1	0	0		三振				死球		死球	遊ゴ
9		打 左	古野 童夢	1	0	0	0									左飛
合計				35	10	5	4	残塁:8 併殺:0								
備考																

■バッテリー

投手
福田 悠平
山田 瑠

捕手
塩田 涼

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
福田 悠平	2 0/3	10	2	1	2	3
山田 瑠	7	26	3	1	1	0

刈谷東		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	中		増本 海人	3	2	1	0	右安		四球		投ゴ		遊ゴ		
2	遊	右	垣 洩 拓人	4	0	0	0	遊ゴ		投ゴ		三飛			振逃	
3	左	投	河野 舜	4	0	2	2	左安		右安			中飛		中直	
4	捕		小栗 雅仁	3	0	0	1	中犠		一ゴ			三ゴ		中飛	
5	三		西村 寛輝	4	0	0	0	三ゴ		遊ゴ			三ゴ		中飛	
6	右	投 左	吉水 竜彦	4	0	1	0		三ゴ		二飛			投ゴ		中2
7	投	遊	日比 俊希	2	0	0	0		中飛		二ゴ			四球		
7		打	多田 晃也	1	0	0	0									捕邪
8	一		山崎 快	3	0	1	0		三振		二ゴ				三安	
8		打	板倉 佑弥	1	0	0	0									投ゴ
9	二		岩月 桃香	3	1	0	0			四球		二飛		三ゴ		三ゴ
合計				32	3	5	3	残塁:6 併殺:1								
備考																

■バッテリー

投手
日比 俊希
吉水 竜彦
河野 舜

捕手
小栗 雅仁

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
日比 俊希	8	38	5	9	6	5
吉水 竜彦	1/3	5	0	1	3	1
河野 舜	2/3	2	0	1	0	0

■戦評

神宮球場で行われた準々決勝第1試合は、共にここまでの試合をコールドで勝ち上がった愛知県立刈谷東高校と兵庫県立飾磨工業高校の対戦となった。先攻の飾磨工業は初回先頭の塩田が死球で出塁すると二盗を決め2番小路の犠打の間に一気に本塁を陥れ1点を先制する。刈谷東はその裏4番小栗の犠飛によりすぐさま同点に追いつく。3回飾磨工業が敵失により1点を勝ち越すが刈谷東はその裏一死二三塁の好機に3番河野が逆転の2点適時安打を放つ。刈谷東先発日比は走者を出しながらも粘り強い投球を、飾磨工業は3回途中から救援した2番手山田が相手打線を打たせて取る投球を続け3-2のまま試合は終盤へ。8回飾磨工業は一死から3番山田が二塁打で出塁すると暴投の間に生還し同点に追いつく。なおも2つの安打と四球により満塁とし7番福田(幸)の押出死球により逆転に成功する。さらに8番福田(悠)が2点適時安打を打ち追加点を奪うとその後敵失もありこの回計6点を奪う。勢いに乗った飾磨工業は9回にも2点を追加し10-3で勝利し、準決勝に進出した。一方敗れた刈谷東はここまで好調だった打線が飾磨工業2番手山田の前に散発3安打と完全に抑えられ中盤以降得点を奪えず無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ

天理高等学校 対 清和学園高等学校 通信制

■球場 明治神宮野球場 第2試合 準々決勝 ■試合時間 1時間16分 ■備考 5回コールド

■審判 球審:竹本 塁審:鈴木(優) 濱野 河村

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5									計	安	失
天理	近畿・奈良	1	0	2	2	5									10	14	0
清和学園・通	埼玉	0	0	0	0	0									0	0	2

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	5						
1	中		窪田正喜	3	2	2	0	捕飛	四球		中2	中2							
2	右		平野雄大	4	2	3	0	二安	三安		中飛	三安							
3	投	三	岡田民生	4	2	3	4	右安	二ゴ		中安	中安							
4	左		森口信宏	3	1	2	0	四球		左安	左安	捕邪							
5	遊		片山幸輔	4	0	1	1	投ゴ		二ゴ	遊失	中2							
6	一		浅見紫歌	2	1	0	0	捕飛		四球	三ゴ	四球							
6	一		内山理弘	0	0	0	0												
7	三		清水勇人	4	0	0	0		遊ゴ	遊邪		二飛	二飛						
7	投		伊藤慎介	0	0	0	0												
8	二		邊田三嗣	2	1	2	2		四球	左2		右3							
9	捕		原田成人	2	1	1	2		投犠	三振		中本							
合計				28	10	14	9	残塁:9		併殺:0									
				備考															

■バッテリー

投手
岡田民生
伊藤慎介

捕手
原田成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
岡田民生	4	15	0	3	3	0
伊藤慎介	1	4	0	1	1	0

清和学園・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5							
1	二	一	礪部翔海	3	0	0	0	三振		三ゴ		三ゴ							
2	中		榎本瑠輔	2	0	0	0	三振		三ゴ									
3	投	二	鈴木翔悟	1	0	0	0	四球			右飛								
4	遊		大日向礼央	2	0	0	0	二ゴ			右飛								
5	一	投	新井翔太	0	0	0	0		四球		四球								
6	三		田端優貴	2	0	0	0		右ゴ		右邪								
7	捕		石川拓哉	1	0	0	0		三ゴ			四球							
8	左		石塚拓海	2	0	0	0		三振			投ゴ							
9	右		輿石拓己	2	0	0	0			二ゴ		三振							
合計				15	0	0	0	残塁:4		併殺:1									
				備考															

■バッテリー

投手
鈴木翔悟
新井翔太

捕手
石川拓哉

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
鈴木翔悟	4 1/3	29	12	1	4	7
新井翔太	0 2/3	5	2	0	1	1

■戦評

神宮球場で行われた準々決勝第2試合は、2回戦をコールドで完勝した天理高校と主戦鈴木との粘投により接戦で制した清和学園高校・通信制の対戦となった。天理は初回一死三塁の好機に3番岡田が適時安打を放ち先制に成功すると3回に8番邊田の2点適時二塁打で4回は岡田の適時安打と敵失により2点ずつを追加する。清和学園は初回2回4回と四球により走者を出すものの天理の堅い守りの前に得点はおろか走者を進めることさえできない。5回天理は1回戦からここまで粘投を続けてきた清和学園の主戦鈴木を攻め9番原田の2点ランニング本塁打など4連打で鈴木をマウンドから引きずり降ろすと代わった2番手新井から3番岡田の2点適時安打と5番片山の適時二塁打により3点を追加し試合を決めた。先発岡田が投げては4回を無安打に抑え打っては3安打4打点の活躍を見せた天理が5回コールド10-0で勝利し、準決勝に進出した。一方敗れた清和学園は攻守ともに隙のない野球を見せた天理の前に1・2回戦突破の原動力となった粘り強さを投打どちらも発揮することができず無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ 沖縄県立泊高等学校 通信制 対 日本ウェルネス高等学校 通信制

■球場 府中市民球場 第1試合 準々決勝 ■試合時間 1時間44分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:鈴木(礼) 塁審:須田 仲田 松山

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
泊・通	沖縄	0	0	1	0	0	0	0							1	6	5
日本ウェルネス・通	東京2	0	3	0	0	3	1	1x							8	8	0

泊・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	二		山城海人	2	0	0	0	三ゴ		四球		三直						
2	遊		田端大夢	3	0	1	0	投飛		三振			右安					
3	右		当山貴久	2	0	0	0	四球		投飛			三ゴ					
4	捕		玉城翔大	3	0	2	1	左安		左安			三振					
5	一		玉城凌賀	3	0	0	0	三振			三振		三振					
6	三		具志隆一郎	3	0	0	0		投ゴ		中飛			投ゴ				
7	中		譜久島利勇	3	0	1	0		三飛		三振			右3				
8	左		砂川将平	3	0	1	0		投ゴ			三安		三振				
9	投		内間安恒	3	1	1	0			左2		遊飛		投ゴ				
合計				25	1	6	1	残塁:5 併殺:0										
備考																		

■バッテリー

投手
内間安恒

捕手
玉城翔大

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
内間安恒	6 1/3	40	8	1	8	2

日本ウェルネス・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7				
1	投		津澤拓実	4	0	0	1	投ゴ	中飛		中飛	一直	中飛					
2	二		小松拓毅	5	1	3	2	左安	中安		遊飛	三失		左安				
3	一		坂元レオ	5	0	0	0	左飛	遊飛		遊失	遊ゴ		一ゴ				
4	遊		中山隼	5	1	2	1	二安		遊ゴ	投飛		遊失	中2				
5	中		大城海人	4	1	2	0	投飛		中3		左3	三振					
6	右	左	富山義士	4	2	1	1		一失	一飛		右安	三ゴ					
7	捕		東龍	2	1	0	0		遊飛	四球		遊失	四球					
8	左	右	金木脩祐	2	1	0	0		四球	三邪		投ゴ	四球					
9	三		南馬僚介	0	1	0	0		四球		死球	死球	死球					
合計				31	8	8	5	残塁:13 併殺:1										
備考																		

■バッテリー

投手
津澤拓実

捕手
東龍

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	7	27	6	7	2	1

■戦評

府中球場で行われた準々決勝第1試合は、乱打戦となった2回戦を競り勝った沖縄県立泊高校・通信制と投打に相手を圧倒し2回戦を完勝した日本ウェルネス高校・通信制の対戦となった。2回日本ウェルネスは敵失と2つの四球から一死満塁の好機を作ると1番津澤の犠飛により1点を先制し続々2番小松の2点適時安打により追加点を奪う。3回泊は9番内間が二塁打で出塁すると4番玉城(たましろ)の適時安打により生還し1点を返す。3回4回と得点圏に走者を進めながら追加点を奪えずにいた日本ウェルネスは5回6番富山の適時安打と敵失により3点を奪うと6回にも1点を追加する。7回表泊は一死から8番譜久島が三塁打で出塁するも後続が断たれ無得点に終わるとその裏日本ウェルネスは一死三塁から4番中山が適時二塁打を打ち試合を決めた。中盤以降の好機を確実に得点につなげた日本ウェルネスが7回コールド8-1で勝利し準決勝に進出した。一方敗れた泊は1回戦で13点を奪った自慢の打線が機能せず好機を生かす切れなかったことが何とも悔やまれる結果となった。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ

福岡県立ひびき高等学校 対 キラリ高等学校 通信制

■球場 府中市民球場 第2試合 準々決勝 ■試合時間 1時間40分 ■備考 5回コールド

■審判 球審:仲田 塁審:大和 鈴木(礼) 須田

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5									計	安	失
キラリ・通	山静・静岡	0	3	0	0	2									5	4	1
ひびき	福岡	6	1	8	0	×									15	7	2

キラリ・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5						
1	二	捕	遊	柴田 拓真	3	0	0	0	三ゴ	三振			二ゴ					
2	遊		投	松本 侑禪	2	1	0	0	三振		四球		左失					
3	三			山本 将吾	3	1	1	0	左飛		遊ゴ		二安					
4	捕	投	捕	油井 奎弥	2	1	1	2		四球	三振		左3					
5	中			岸端 秀晴	2	1	0	0		四球	三振		一ゴ					
6	右			内田 徳人	2	1	0	0		遊失			三ゴ					
7	一			山本 海斗	2	0	0	0		中飛			投ゴ					
8	左			川邊 大也	2	0	1	0		投ゴ			中安					
9	投	二		粟本 滝太	2	0	1	1		投安			二ゴ					
				合計	20	5	4	3	残塁:3		併殺:0							
				備考														

■バッテリー

投手
粟本 滝太
油井 奎弥
松本 侑禪

捕手
油井 奎弥
柴田 拓真
油井 奎弥

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
粟本 滝太	2	0/3	13	3	0	6
油井 奎弥	1	0/3	13	3	1	7
松本 侑禪	2		7	1	1	1

ひびき		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	1	2	3	3	4					
1	二			高井 直輝	3	2	2	1	左2	左安		四球	捕邪					
2	遊			山本 龍斗	2	2	1	2	四球	三ゴ		四球	左2					
3	捕			古田 聖矢	2	3	1	2	四球		四球	左3	三ゴ					
4	投	一	右	富永 将吾	2	1	1	1	遊飛		四球	遊安	四球					
5	左			西田 豪太	2	2	1	2	左安		四球	四球	三ゴ					
6	一	中		光安 慶人	2	2	0	0	四球		三振	四球	三振					
7	右			今井 優太	0	1	0	2	四球		四球							
7	投			仁禮 智	1	1	1	2					中安					
8	中	右		岩藤 友嘉	2	1	0	0	遊失		遊飛	死球						
8			一	加藤 由樹	0	0	0	0										
9	三			松浦 玲音	3	0	0	1	投ゴ		遊ゴ	遊ゴ						
				合計	19	15	7	13	残塁:6		併殺:0							
				備考														

■バッテリー

投手
富永 将吾
仁禮 智

捕手
古田 聖矢

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
富永 将吾	2		10	1	2	2
仁禮 智	3		13	3	2	1

■戦評

府中球場で行われた準々決勝第2試合は、2回戦を中盤から終盤にかけて確実に得点を奪いコールドで制した福岡県立ひびき高校と終盤の競り合いをものにしたキラリ高校・通信制の対戦となった。試合は初回からひびき打線がキラリ先発粟本に襲いかかる。1死満塁から5番西田の2点適時安打で先制すると押出四球や敵失、1番高井の適時安打によりこの回計6点を奪う猛攻を見せる。序盤のうちに点差を縮めたいキラリは2回連続四球を足がかりに相手のミスと9番粟本の適時安打により3点を返す。引き離したいひびきは2回押出により1点を追加すると3回3番古田の2点適時二塁打やこの回から救援した途中出場の7番仁禮の2点適時安打などによりこの回打者11人で大量8点を追加し序盤3回で15-3と大差をつける。このままでは終われないキラリも5回二死から敵失と内野安打で好機を作ると4番油井が2点適時三塁打を放ったが後続が断たれ反撃もここまで。ひびきが5回コールド15-5で勝利し、準決勝に進出した。一方敗れたキラリは終始大量点差を追いかける展開となってしまい自慢の攻撃陣が本来の力を発揮できず無念の敗戦となった。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ

兵庫県立飾磨工業高等学校 対 天理高等学校

■球場 府中市民球場 第3試合 準決勝 ■試合時間 1時間30分 ■備考 7回コールド

■審判 球審:松山 塁審:山田 竹本 谷川

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7							計	安	失
飾磨工業	兵庫	1	0	0	0	0	0	0							1	1	3
天理	近畿・奈良	0	1	4	3	2	0	x							10	8	0

飾磨工業		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7						
1	捕	投	塩田 涼	2	1	0	0	四球		左飛			左飛							
2	遊		安井 杏耶	3	0	0	0	投ゴ		三ゴ			二ゴ							
3	投	一	山田 瑠	3	0	1	1	右2		二ゴ			中飛							
4	三		多田 羅大輔	3	0	0	0	三振			遊ゴ			中飛						
5	右		山本 倫守	3	0	0	0	三飛			捕ゴ			三振						
6	一	捕	福田 幸基	3	0	0	0		三飛		三ゴ			三振						
7	二		小路 和輝	1	0	0	0		四球				三ゴ							
8	中		福田 悠平	1	0	0	0		投犠				中飛							
9	左		伊賀 神一郎	2	0	0	0		二ゴ				捕邪							
合計				21	1	1	1	残塁:2 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
山田 瑠
塩田 涼

捕手
塩田 涼
福田 幸基

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
山田 瑠	2 2/3	17	4	1	5	4
塩田 涼	3 1/3	17	4	1	1	4

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7						
1	中		窪田 正喜	3	2	1	0	左安		四球	二ゴ	二失								
2	右		平野 雄大	3	2	2	0	投犠		三安	左安	二ゴ								
3	三		岡田 民生	4	1	1	2	遊飛		二ゴ	中安	三失								
3	三		清水 勇人	0	0	0	0													
4	左		森口 信宏	4	0	0	0	三振		三ゴ	三振	三ゴ								
5	遊		片山 幸輔	3	3	2	2		死球	中安	右3		投ゴ							
6	一		浅見 紫歌	1	1	0	0		投犠	四球	四球		三ゴ							
7	投		堀部 陸	3	0	1	2		死球	左2	三ゴ		遊ゴ							
8	二		邊田 三嗣	2	0	0	0		遊安	四球			二ゴ							
8	二		西川 道男	0	0	0	0													
9	捕		原田 成人	3	1	1	1		一飛	二ゴ		右本								
合計				26	10	8	7	残塁:6 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
堀部 陸

捕手
原田 成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
堀部 陸	7	24	1	3	2	1

■戦評

府中球場で行われた準決勝第1試合は、午前中の準々決勝を終盤の集中打により逆転で制した兵庫県立飾磨工業高校と今大会も盤石の試合運びでここまで勝ち上がってきた天理高校の対戦となった。先攻の飾磨工業は初回一死二塁から3番山田の適時二塁打で1点を先制すると2回に一死一塁から犠打で得点圏に走者を進めたが後続を断たれ追加点を奪えない。今大会初めて追いかける展開となった天理だが2回裏敵失によりすぐさま同点に追いつくと3回無死一三塁から3番岡田の内野ゴロにより逆転に成功する。さらに5番片山の適時安打7番堀部の2点適時二塁打により追加点を奪う。勢いに乗る天理は4回に3点を追加すると5回9番原田の2試合連続となるランニング本塁打と敵失により2点を加え試合を決めた。天理先発堀部は3回以降飾磨工業打線を1人の走者も出さない完璧な投球で抑えた。この試合も投打に相手を圧倒した天理が7回コールド10-1で勝利し、連覇へ王手をかけた。一方この試合では持ち味を出せなかった飾磨工業だが最後まで集中したプレーを見せチームとしてのまとまりを感じさせた。また四球や相手のミスを逃さず積極的な走塁で大量得点を奪い、いく野球は全国三位の名にふさわしいものであったことは言うまでもないだろう。

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 福岡県立ひびき高等学校

■球場 府中市民球場 第4試合 準決勝 ■試合時間 2時間13分 ■備考

■審判 球審:清水 塁審:菊池 大和 鈴木(優)

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
ひびき	福岡	0	0	1	2	0	1	0	1	x					5	4	2
日本ウェルネス・通	東京2	4	0	2	1	1	1	0	3	x					12	11	5

ひびき		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	二		高井直輝	4	1	1	0	三振		投安		二ゴ		遊失						
2	遊		山本龍斗	4	0	1	1	遊飛		左安		三失		三ゴ						
3	捕	一	古田聖矢	4	0	0	0	三振			一飛	三ゴ			中飛					
4	投	一 捕	富永将吾	1	3	1	0		四球		四球		四球		左安					
5	左		西田豪太	2	1	0	0		投犠		四球		遊ゴ		三ゴ					
6	一 中		光安慶人	2	0	1	2		三振		左2		四球		四球					
7	右		今井優太	2	0	0	0		三振		三振									
7		投	仁禮智	2	0	0	1							投ゴ		三失				
8	中 右		岩藤友嘉	4	0	0	0		三振	三振		左飛		三振						
9	三		松浦玲音	3	0	0	0			遊ゴ		三振		投ゴ						
合計				28	5	4	4	残塁:6 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手	捕手
富永将吾	古田聖矢
仁禮智	富永将吾

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
富永将吾	4	23	6	4	3	2
仁禮智	3 1/3	18	5	5	3	5

日本ウェルネス・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投 遊		津澤拓実	3	2	1	0	投安	遊飛	二ゴ			四球							
1		打 右	老田翔	1	0	0	0						三振							
2	二 一	二	小松拓毅	3	2	1	0	投飛	三ゴ		四球		死球		中安					
3	一 左	一	坂元レオ	5	2	2	1	投失	二ゴ		一ゴ		右2		右安					
4	遊 二	遊	中山隼	5	3	3	2	右安		左安	投飛		守妨		中3					
5	中		大城海人	5	1	2	2	三振		左2	中安		三振		三振					
6	捕		東龍	3	2	1	0	振逃		死球		中2	三ゴ							
7	左 三		富山義士	3	0	1	2	左安		遊失		三ゴ		死球						
8	右		金木脩祐	4	0	0	1	遊飛		三振		一ゴ		三振						
9	三 投	左	南馬僚介	3	0	0	0		四球	三振		二ゴ		三振						
合計				35	12	11	8	残塁:7 併殺:0												
				備考																

■バッテリー

投手	捕手
津澤拓実	東龍
南馬僚介	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	4	17	3	7	3	3
南馬僚介	4	18	1	2	3	0

■戦評

府中球場で行われた準決勝第2試合は、どちらも初出場ながらここまで勝ち上がり午前中同球場で行われた準々決勝を共にコールドで制した日本ウェルネス高校・通信制と福岡県立ひびき高校の対戦となった。日本ウェルネスは初回二死満塁から振り逃げにより二者が生還し先制すると7番富山の適時安打により2点を追加する。3回表ひびきが2番山本の適時安打により1点を返すが日本ウェルネスはその裏5番大城の適時三塁打と敵失により2点を追加する。なおも4回5回6回と1点ずつを追加し試合の主導権を渡さない。対するひびきも4回に6番光安の適時二塁打により2点を6回8回は相手のミスで逃さず1点ずつを返し追いつく。引き離したい日本ウェルネスは8回裏4番中山が2点適時三塁打を放つと暴投の間に自らも生還し7点差をつけ試合を決めた。序盤から終始試合を優位に進めた日本ウェルネスが8回コールド12-5で勝利し決勝に進出した。一方決勝進出はならなかったひびきだが、主将古田と投打の軸である富永を中心に攻守にわたってよくまとまっており、コールドで敗れたこの試合でも最後まで全力で戦い抜いたその姿は全国三位の名にふさわしいものであったことは言うまでもないだろう。

■日時 平成30年8月18日(土) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 天理高等学校
 ■球場 明治神宮野球場 第1試合 決勝戦 ■試合時間 1時間49分 ■備考
 ■審判 球審:大和 塁審:竹本 仲田 松山

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
日本ウェルネス・通	東京2	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1	2
天理	近畿・奈良	2	4	1	1	2	3	1	2	x					16	17	0

日本ウェルネス・通		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投	遊		津澤拓実	4	0	0	0	二ゴ		遊飛			一ゴ			中飛				
2	二			小松拓毅	4	0	0	0	投ゴ		三振			三併			三ゴ				
3	一			坂元レオ	2	0	0	0	四球			投ゴ			一ゴ						
4	遊	三		中山隼	3	0	0	0	一飛			右飛			左飛						
5	中			大城海人	3	0	0	0		三振	左飛				三振						
6	捕	左		東龍	3	0	0	0	遊ゴ				三振			三ゴ					
7	左	捕		富山義士	2	0	0	0	四球			左飛				二飛					
8	右			金木脩祐	1	0	0	0	一ゴ												
8		打	右	老田翔	2	0	0	0					三振			三振					
9	三	投		南馬僚介	3	0	1	0			遊直			中安			左邪				
合計					27	0	1	0	残塁:2 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
津澤拓実
南馬僚介
津澤拓実

捕手
東龍
富山義士
東龍
富山義士

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	2	14	6	0	2	6
南馬僚介	5	30	9	0	7	8
津澤拓実	1	6	2	0	1	1

天理		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	中			窪田正喜	5	2	3	1	中2	左安		二ゴ	二飛	左安							
1		投		堀部陸	0	0	0	0													
1			打	清水勇人	1	0	0	0								二ゴ					
1			右	椿井友哉	0	0	0	0													
2	右		中	平野雄大	1	2	0	0	投犠	中飛		四球	四球	四球		四球					
3	三		遊	岡田民生	5	2	4	4	四球	中3		中安	中安	遊飛		三安					
4	左			森口信宏	5	1	2	3	左2	遊飛		左飛	中飛		四球	中安					
5	遊			片山幸輔	3	0	0	0	捕犠	投ゴ		四球		一ゴ	一ゴ						
5			三	西川道男	1	0	0	0								投ゴ					
6	一			浅見紫歌	3	2	1	0	二飛		四球	三ゴ		左安							
6		打		高柳枝理	1	0	1	0								三安					
6			一	内山理弘	0	0	0	0													
7	投	中		伊藤慎介	4	2	2	0		四球	投ゴ		左2	左安	遊ゴ						
8	二			邊田三嗣	4	3	3	3		左安	一ゴ		四球	中安	左2						
9	捕			原田成人	5	2	1	1		中安	遊ゴ		遊ゴ	遊ゴ		三ゴ					
合計					38	16	17	12	残塁:10 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
伊藤慎介
堀部陸
伊藤慎介

捕手
原田成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
伊藤慎介	6	20	1	4	2	0
堀部陸	2	6	0	2	0	0
伊藤慎介	1	3	0	0	0	0

■戦評

この夏を象徴するような青空と暑さの中、神宮球場で行われた65回大会の決勝戦は初出場初優勝を目指す日本ウェルネス高校・通信制と12年連続15回目の優勝を目指す天理高校の顔合わせとなった。両チームは1回戦から試合をしており今大会は順調に大会が消化したため、どちらも4日間で5試合目の試合が決勝の舞台となった。天理は初回先頭の窪田が二塁打で出塁すると手堅く犠打で送る。続く3番岡田が四球を選びすぐさま二盗を決め二三塁とすると4番森口が適時二塁打を打ち2点を先制する。続く2回8番邊田からの三連打などにより4点を追加する。流れを変えた日本ウェルネスは3回から2番手南馬をマウンドに送るが天理の勢いは止まらず3回4回5回と追加点を取り5回を終えて10-0と大差をつける。天理先発伊藤の前に5回まで無安打に抑えられていた日本ウェルネスは6回先頭の9番南馬がチーム初安打を放つが後続が内野ゴロと併殺打に倒れ走者を進めることさえできない。その後も毎回得点を重ね8回までに16点を奪った天理は最終7回から2番手堀部にマウンドを譲っていた主戦伊藤が再び登板すると日本ウェルネス打線を三者凡退に抑え今年もまた頂点にのぼりつめた。今大会5試合合計で打っては54安打53得点、守っては5被安打2失点1失策と全く隙の無い野球で他校を圧倒した天理が連覇の数を「12」に伸ばし4日間の熱戦は幕を閉じた。一方惜しくも初出場初優勝を逃した日本ウェルネスだが、上位打線を中心に高い攻撃力と積極的な走塁で得点を奪う野球で優勝した天理同様に大会を大いに盛り上げたことを最後に記しておく。